

(様式1)

平成23年度  
研究助成報告書

提出日 平成24年 3月 30日

研究の種類

共同研究(含む海外) ● 個人研究 ・ 出版助成

研究課題名

過疎地における廃校利用による地域おこしとコミュニティ形成について

研究代表者及び研究分担者(所属・職名・氏名)

家政学部 建築・デザイン学科 教授 堀 啓二

堀ゼミナール ゼミ生

研究期間(当該年度期間に何時何処でどんな事をしたか、年間スケジュールを記入)

〈例: 7月25日 共立博物館において〇〇の資料収集〉

5月9日～7月30日 共立女子大学 小学校等コンバージョンの事例調査、分析

8月4日 共立女子大学 現地調査準備

8月5日～6日 新潟県十日町市小出地区及び清津峡小学校現地調査ヒヤリング1

8月12日～15日 新潟県十日町市小出地区及び清津峡小学校現地調査ヒヤリング2

8月17日 神奈川県相模原市 小学校コンバージョン視察「篠原センター」(旧篠原小学校)

8月18日 栃木県那須郡 小学校コンバージョン視察「もうひとつの美術館」(旧小口小学校)

8月19日 東京 小学校及び中学校コンバージョン視察

・3331Arts Chiyoda (旧練成中学校)・世田谷ものづくり学校(旧池尻中学校)

・サン・サン赤坂(旧氷川小学校)・台東デザイナーズビレッジ(旧小島小学校)

8月20日～21日 新潟県十日町市小出地区及び清津峡小学校現地調査ヒヤリング3

8月22日～25日 現地調査に基づく清津峡小学校使われ方案検討作成(3案)

8月26日～29日 新潟県十日町市小出地区 清津峡小学校使われ方案住民の方への

プレゼンテーション及び意見交換会開催

10月1日～12月19日 共立女子大学 事例視察の分析まとめ、地元住民の意見分析まとめ

及びフィードバック

2012年

2月25日～26日 豪雪の新潟県十日町市小出地区及び清津峡小学校現地調査ヒヤリング3

3月 共立女子大学 今までの調査分析に基づく清津峡小学校コンバージョン企画書検討・作成

企画書に基づく計画案及び図面、模型等作製

(様式2)

研究組織 [ 氏名, 所属, 役割分担 ]

(共同研究のみ記入)

研究発表 (印刷中も含む) 雑誌及び図書

## (様式3)

## 研究実績の概要

## ・研究の目的

十日町を中心とする越後妻有地区では、3年毎に地区全体を発表の場所として妻有アートトリエンナーレというアートフェスティバルが行われている。このフェスティバルは、過疎化が進む地方都市や村落の持っている、豊かな環境資源を活かしつつ、その中にアートを展開することで、豊かな環境を再認識するとともに、地域おこしの役目も果たしてきた。

我々の研究室も小出地域の空家プロジェクトに参加し、実際に村に滞在し村の人達とともに作品をつくってきた。村の人達との良好な関わりの中、一定の成果は得られてきた。しかし、少子高齢化もあり過疎化の波は止まらない。全国の小学校同様、小出地区の小学校も最後は学生2人となり、隣町に吸収合併され昨年廃校となった。

小学校は、誰にとっても育った場の原風景であり、その地域のコミュニティの中心の場である。廃校になった昨年からは毎年6月に地域の運動会で使用されるなど、今でも村の財産となっている。

本研究の目的は、全国の廃校利用の実例を調査分析するとともに、実際に現地の方々にヒヤリングやプレゼンテーションを行い、現地の方々と一緒になって、再利用の方法を提案し廃校利用の可能性を探ることにある。

なお、この研究は、学生（掘ゼミナール生）とともに現地に入り、サーベイ、ヒヤリング等を行い、計画案を作成する。

実際に住民の方々にプレゼンテーションする作業は教育的効果も大きい。

## ・研究の実績

## 1. 事前調査

少子高齢化に伴い日本全国で小学校の統廃合が進んでいる。文部科学省の「廃校施設等活用状況実態調査」（平成22年5月1日現在）によれば、平成14年度から平成21年度に廃校になった公立学校数は5,796校である。

その内、現存するのは3,310校で、何らかの活用が図られているのは2,295校（69.3%）である。廃校となった学校はコンバージョンが行われ、様々な用途に活用され使い続けられている。

一方、現在活用されていないものは1,015校（30.7%）ある。その内794校については利用予定がなく、その理由として、活用を検討しているものの地域等からの要望がない（44.8%）、活用方法がわからない（9.2%）こと等があげられている。

このことから、その施設を利用する現地の住民の方からの意見はとても重要であることがわかる。

コンバージョン事例を文献中心に調査分析した結果下記の利用が多く見られた。

社会体育施設、社会教育施設、体験交流施設、文化施設、老人福祉施設、保育所等の児童福祉施設、民間企業のアトリエ、スタジオ、オフィスや工場等。

## 2. 事例視察調査

事前の文献調査の中から、特徴的な事例を抽出し実際に視察を行い運営や空間の活用法について体験した。

- ・旧練成中学校 3331Arts Chiyoda 東京都千代田区外神田

「アーティストやクリエイターたちがそれぞれの表現を自由に発信する大型のアートスペース」

- ・旧池尻中学校 IKEJIRI INSTITUTE OF DESIGN—世田谷ものづくり学校 東京都世田谷区池尻

「デザイン・建築・映像・食・アート・ファッション等、様々な分野のクリエイターに教室を開放し、ワーキングスペースとして機能させた廃校跡地再生プロジェクト」

- ・旧氷川小学校 サン・サン赤坂 東京都港区赤坂

「高齢者と子供たちの世代を超えた交流を推進する高齢者福祉施設と児童厚生施設との複合施設」

- ・旧小口小学校 もうひとつの美術館 栃木県那須郡  
「知的障害者の生み出す美術作品を常設展示する美術館」
- ・旧篠原小学校 篠原センター 神奈川県相模原市  
「地域活性化を目的としたNPO 法人『篠原の里』による子育て事業を中心とした宿泊体験施設」
- ・旧小島小学校 台東デザイナーズビレッジ 東京都台東区小島  
「台東区が運営する企業したてのデザイナーを対象にした操業支援事業 オフィス、アトリエとして貸し出す」
- ・旧朝日小学校 体験型学校施設朝日里山学校 茨城県石岡市芝打  
「里山の自然を活かし、林業、農業、食などを体験する交流・体験型施設」

### 3.現地サーベイ 1 環境等の調査

夏8月と豪雪の2月現地の環境調査を行った。夏及び中間期はとても過ごしやすい環境ではあるが、冬の豪雪は2階家が完全埋まってしまい、ひとの生活や活動を閉じ込めてしまうとても過酷な環境であった。その中でもこの地区がある十日町市は、妻有アートトリエンナーレ関連イベント（冬の林間学校、冬の運動会、雪を利用したアートイベント）やスキー場を利用したアートイベントが冬も積極的に行われ活性化をはかっている。

### 4.現地サーベイ 2 ヒヤリング等の調査

現地での住民の方々への直接のヒヤリングとアンケートを行い、実際の要望等を把握しまとめた。

### 5.計画案の作成及びプレゼンテーション

事前調査、現地サーベイ及びヒヤリングの結果を活かし、3案使い方の計画案を作成した。それを基に現地の方々にプレゼンテーションを行い、計画案に対する意見、要望を確認した。

#### ・案1 地域サポート施設 清津の家

小学校を地域サポートの拠点としつつ、様々な地域の方々を呼び集める多機能センター。

地域サポート施設 健康相談、アスレック等健康支援施設、子育て支援、伝統芸能の練習・披露等

宿泊体験施設 農業体験が可能な林間学校、大学のサークル活動、アートイベント等

サポート施設がひとを呼び込み働き手や住まい手を生み出すことで、小学校としての復活を目指す。

#### ・案2 外部と内部の出会いの場

長期滞在型 不登校の子供たちの学校。

学校を寄宿舎としても使用、授業の他農業体験やホームステイにより、自然に触れながら地域の人達との交流を図ることで、子供たちにこの地区を第2の古里と感じてもらおう。この地への若者の定住の可能性も出てくる。

短期滞在型 宿泊施設

農業体験が可能な林間学校、大学のサークル活動、アートイベント等

#### ・案3 きよつのいえ 長期滞在型 村人になろう計画

長期滞在型 クラインガルテン

将来地方で農業をして生活したい人達の年間を通したプログラム。

休暇型 家族、団体向け自然体験プログラム。

運動場や後者前の広場を利用した野菜直売所の設置や、雪祭りやワークショップの開催。

地元の役に立つとともに、とにかく年間通して人にきてもらえ、それをきっかけとして若者が増える施設が良い。そういうことから、冬の雪を利用したアートイベントによるひとの呼び込み、宿泊施設として学生を中心とした活動のサポート等の利用がとても良い。そして、多くの人達が利用することでこの地区の人口も増え、最終的には小

学校として再生させたいとの意見だった。

#### 6.最終案の作成及びプレゼンテーション

意見、要望を計画案にフィードバックし、最終企画書を作成した。

その企画書を基に、小学校のコンバージョン案を計画し、現在プレゼンテーション中である。

今年は、妻有アートトリエンナーレの本番の年で、8月に開催される。その期間に合わせて、小出の家で住民の方々を呼んでシンポジウムと展示を行う予定である。